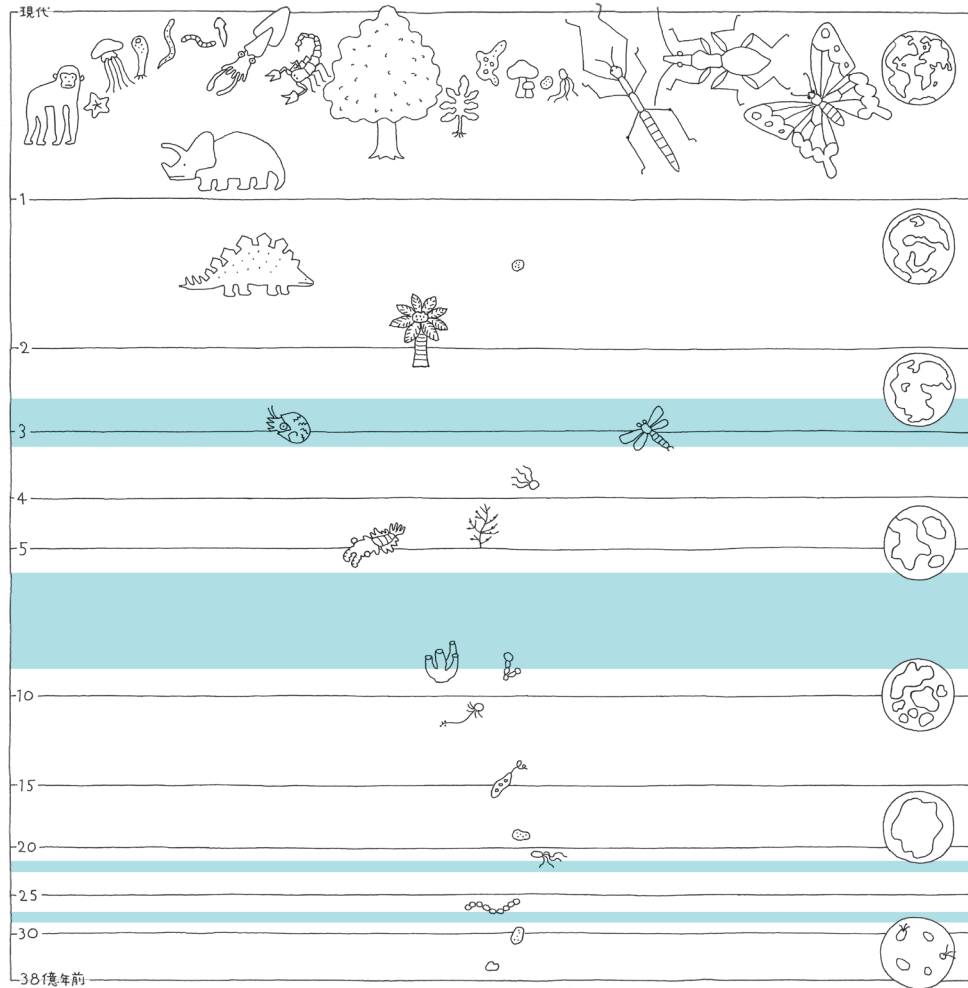


紙でつくる 生命誌三つの表現

# 新・生命誌絵巻

開館時から十年ごとに創った「生命誌絵巻」「新・生命誌絵巻」「生命誌マンダラ」。生命誌という新しい知を、わかりやすく、美しく、しかも考えを深めるものとして表現してきました。2013年に制作した3つの紙工作では、絵巻やマンダラを制作した後の研究成果を加えました。組み立てて、基本と研究の進展とを合わせてください。

## 新・生命誌絵巻 2003年制作



画：和田誠

当館のオサムシの研究から、地面を這っているオサムシの分布が日本列島の形成を反映していることがわかり、驚きました。しかし、生きものは地球の上で暮らしているのだからこれがあたりまえということに気づき、自然そのものを見る「知」を考え始めました。そこで開館10周年に、地球の動きを取り入れた新・生命誌絵巻をつくりました。生命誌絵巻に加えて次のことが描いてあります。

(1) 生物多様性の詳細：135万種の生きものを分類すると、その65%ほどは昆虫とわかります。生きものの大きさは種数を表現しています。

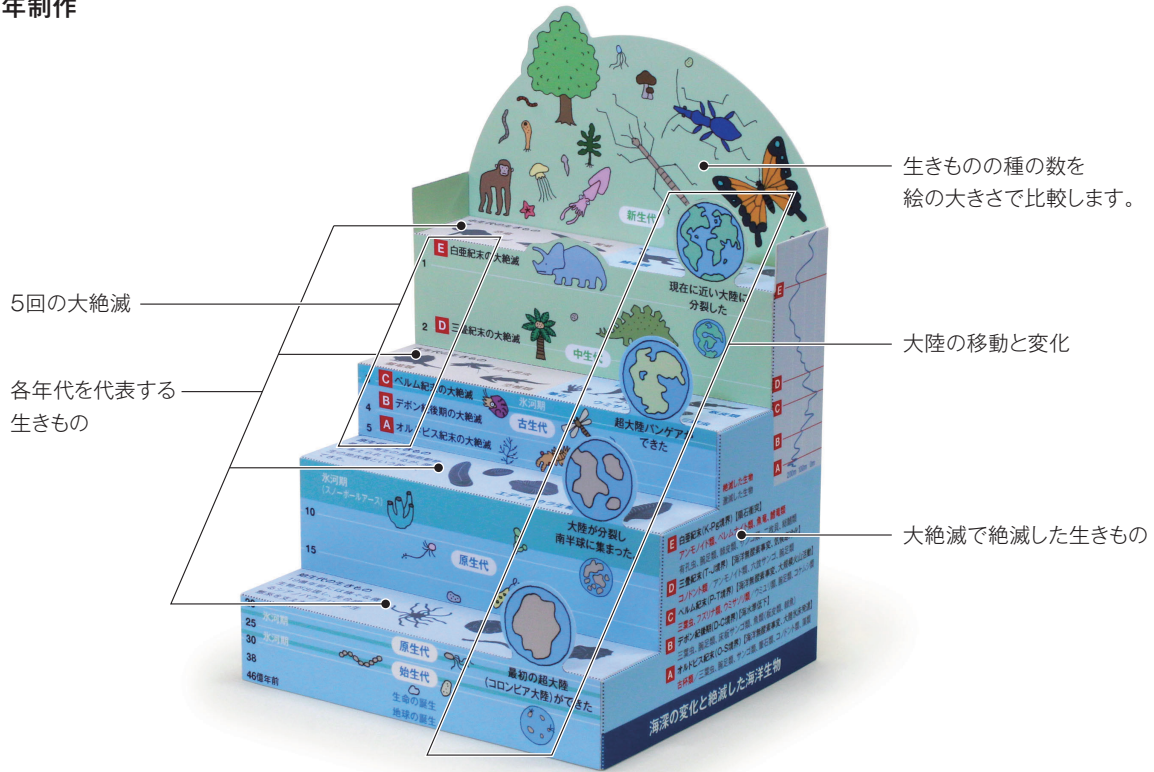
(2) 地球の変化：46億年前に誕生した地球に海ができ、38億年前に生命体が誕生してからの地球と生きものの関わりに注目します。

(3) 氷河期と絶滅：スノーボールアースと呼ばれる時期など、地球には何度かの氷河期がありました。実は生きものが上陸した5億年ほど前のオルドビス紀以降5回もの絶滅があります。

一方、気温、湿度、大気の形成などの地球の変化は、火山活動や大陸移動など地球自身の動きだけでなく生きものはたらしきによっても起こります。地球あつての生きもの、生きものあつての地球。地球はまさに生命の星なのです。実は、ここで生きていくことは生易しいものではないのですが、くり返し起こる絶滅を体験しながらも、決して絶えることなく38億年も続いてきました。生きものはしたたかで、強い生きる力を持っているのです。環境に適応しながら融通をきかせてきたたかに生きる生きもの特有のしゅきみを知ることが生命誌を読み解く鍵でしょう。難しい課題ですが、この鍵を探すのが楽しみです。

# 立体新・生命誌絵巻

2013年制作



開館10周年に、和田誠さんに描いていただいた「新・生命誌絵巻」。「生命誌絵巻」を眺めていると、38億年前に誕生した生きものたちが多様化し、現在の姿になってきた歴史がよくわかります。しかし、その間には絶滅もあったんだよねと思い、ここに地球の動きを描き込みたいと考えました。

生命誕生の頃には大陸はありませんでしたが、原生代の初期に超大陸が誕生して以来、分かれたり集まったりをくり返してきたのです。このような大陸移動、気候変動(とくに氷河期)が生

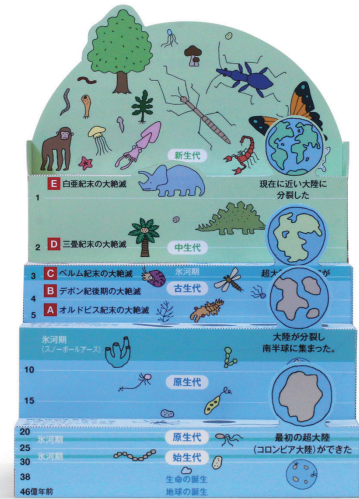
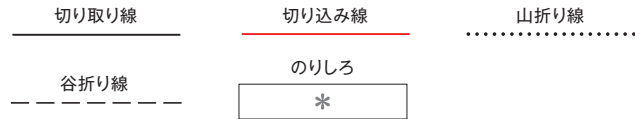
きものに与えた影響と、逆に生きものが地球に及ぼすの影響双方を考えながら歴史を追う、新絵巻の役割はそこにあります。

紙工作では、側面に地球環境の変動と生きものの盛衰を描きました。化石や地質の情報から地球の歴史が見えます。現生の生きものは絶滅の危機を乗り越え続けてきた子孫です。近年、噴火や地震のニュースが多く、地球も大陸も動いていると実感します。自然をこのような動きのあるものと捉えることが重要です。

紙でつくる 生命誌三つの表現

# 立体 新・生命誌絵巻のつくり方

- 切り取り線にそって、カッターナイフやはさみでいねいに切り抜きます。
- 折り線は、鉄筆や芯を出していないシャープペンシルなど、適度に先のとがったものを定規にあて、まっすぐ線を引くようにして筋をつけてから折り曲げます。
- すべての折り線をいったん折り曲げてから、説明図にしたがってのりつけて組み立てます。細かい部分の組み立てには、ピンセットを使うと便利です。
- のり付けには木工用接着剤を使います。いったん小皿に出してから、つまようじを使って薄くむらなく塗りましょう。



**A** ②の裏面の先端に、周囲をぴったり合わせて①を貼ります。

**B** 左右のパーツをのりつけます。

折り筋は、組み立ての前にしっかりと折り曲げておきましょう。

**C** 「中生代の生きもの」を取りつけます。中央の長いのりしろをまっすぐのりつけた後、左右ののりしろを側面とぴったり重ねて貼り合わせます。

**D** 「中生代」を取りつけます。ABCの順にのりつけると簡単です。

**E** 同じように「古生代」「原生代」の順に貼りつけます。

**F** 「始生代」を貼りつけて完成です。

デザイン：坂 啓典 (図工室)